

## 韓国の七奪を論破⑥

# 日 韓 の 真 実

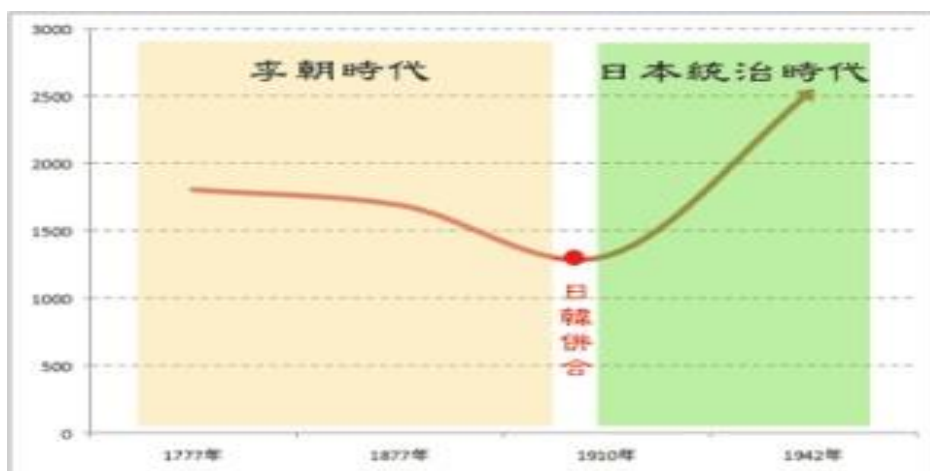
## (6) 「命を奪った」への反論

今、相も変わらず日韓関係は歪曲と捏造の「従軍慰安婦強制連行」問題が原因で揺れている。問題の原因はひとえに韓国に在る、故に、我々のやるべき事は、正しい歴史を知ることによって日本人の韓国に対する誤った贖罪感を払拭し、その誤解を解くことであろう。今我々は韓国の教科書に「日本によって奪われた七奪」の主張を、その誤りを正し、誤解を解くための学びを行っている。今回は「命を奪った」への反論である。

〈日韓50年戦争〉・・・世界で認められていない歴史・・・

この歴史の内容は、日本の統治期間中、日本は虐殺の限りを尽くし、何十万人の命が奪われた。日清戦争のきっかけとなった「東学党の乱」から1945年迄の50年間、日韓は戦争状態にあり、この間何十万人の虐殺が行われた。最後は大韓民国臨時政府軍が勝利して祖国を独立させた…との筋書きである。

日本の統治が始まった1910年は1,300万人の人口が1945年（昭和20年）にはほぼ倍増の2,500万人になっている。逆に日本が朝鮮の人口増にどれ程の貢献をしたかは明らかになっている。



朝鮮半島人口推移

国定教科書小学校社会科では「大韓民国臨時政府は中国の諸地域に散在していた独立軍を一ツに集めて光復軍を組織して、日本の軍隊の強制徴用から脱出した青年達も光復軍に移って来た。ついに日本が第二次大戦を起したので我が臨時政府も日本に宣戦布告をして、連合軍と連絡を取りながら独立戦争を展開した。世界各国も我が国の独立を約束し、民族全体が国の内外で戦い、日本に対抗し、ついに光復を迎えた。」

中学校用では「日帝が太平洋戦争を起こすと、臨時政府は日本に宣戦布告し、連合軍と手を結び、独立戦争を展開した。光復軍は中国各地で中国軍と協力しては日本と戦った。そればかりか、インド・ミャンマー戦線でもイギリス軍と連合して日本軍と戦った」…と。

全く以て「開いた口が塞がらない」出鱈目ぶりに驚かされる。「日本軍隊に強制徴用されたが脱出して来た青年」とあるが、朝鮮人に徴兵制度が適用されたのは1944年（昭和19年）であり、大東亜戦争前に徴用されるはずがない。

「日本が第二次大戦を起した」とは、全く嘘で、第二次大戦の開始はドイツがポーランドに侵攻した1939年である。歴史歪曲の極め付けは、中学教科書での「インド・ミャンマー…戦った」のくだりである。あたかも韓国が大東亜戦争の連合国の一員であったかのように教えていることである。

近代に於いて日韓が戦争をしたことはない。また上海臨時政府なるものが連合国に承認された事実もない。韓国の建国は1948年（昭和23年）である。故に「日韓五十年戦争」も韓国特有の願望の産物と言える。このベースになったのは「朝鮮独立運動血史」である。これは朴殷植（パクウンシク）という、自称上海臨時政府の“二代目大統領”という人物が反日の為、悪意をもって、彼の“希望事項”を記述した「野蛮な日本による虐殺物語」であり、反日教育を必要とした韓国政府にとってこれほど都合の良い著書はなく、これを「史実」として学校で教えることとなった。例えば、日本は母子が結婚する古来から受け継がれた野蛮な習慣をわが民族に強制し倫理を冒瀆した…とか、絶海の野蛮民族を教導してやったのが朝鮮である…とか、ふんどし一ツの裸で淫売の習慣や男女間の風紀の紊乱（ぶんらん）を朝鮮人は嘲笑（あざわら）っていた…とか、国家や個人の財産は狡猾に詐欺と暴力によって奪ったもの…とか、等、日本人への偏見と侮辱に満ちたものである。

この捏造本は「金完燮（キムワンソプ）」氏の『「親日派の為の弁明2」扶桑社』の中で、その「東学党三十万人虐殺と日露戦争時の民間人虐殺の嘘」の歴史を暴

いている。「命を奪ったの反論」はこの「朝鮮独立運動之血史」の内容を明らかにし、その歴史捏造を暴くことがより効果的である。東学党の乱は、李氏朝鮮の圧政に耐えかねた農民一揆であったが、韓国では「日本軍による東学党大虐殺」をもって日韓五十年戦争の勃発となっている。それは「血史」にある次の記述が「もと」になっている。

「東学党は、鎌や鋤（すき）などの農具を武器にして蜂起し、政府軍や日清軍と交戦すること九ヶ月以上に及んだ。死者30余万人を数え、民族史上、古今未曾有（みぞう）の惨状を極めた」これに反論すると、日本軍本隊が清と締結した「天津条約」に基づいて、「在留邦人保護」のため朝鮮半島に上陸したのは、乱が鎮圧された後で、日本軍隊は大使館警備のため二ヶ小隊しか居なく「戦う兵力」などなかった。にもかかわらず近代式武装で訓練された日本軍に敗退し、30万～40万人の犠牲を出して幕を下ろした…ことになっている。スーパーマンではない生身の人間には不可能なことであり、全くの濡れ衣（ぬれぎぬ）である。死者数にしても総人口から老人と子供を除いた300万人以下の10%以上が東学党として死んだなど信じられるだろうか？

また「血史」によれば、日露戦争時には日本軍は民衆を労働者として徴用し、拒否すればロシアのスパイとして拘束し、拷問し、甚だしくは斬殺した。ある時は四肢を十字架に縛り付け銃殺し、女子を殺すときはその首を路上にかけ往来の衆目にさらした…と。まるでフィクション作家並みである。むしろ「一進会」の人々を中心に多くの朝鮮人が手弁当で駆けつけ、武器の輸送や鉄道建設などに協力してくれた事実もある。唐突に婦女子殺害の話も出てくるが、当時の明治人の軍規厳正な人達が、彼の言うような蛮行などあり得ない話である。



一進会が建設した日本を歓迎する奉迎門

## ＜三一運動に関する弾圧の歪曲史＞

「三一運動」を日本は残虐な手段で弾圧し、多くの朝鮮人を捕らえて拷問にかけ虐殺したと主張しており、日本の教科書にもそのように書いてある。この問題は日韓近代史の大きなテーマになっている為、きっちりと反論したい。

第一次大戦後、米国大統領ウィルソンは日本の国際連盟に対する「人種差別撤廃」の提案に対し、それを拒否した「人種差別」主義者であるが、「民族自決思想」を唱えた。実は、彼の唱えた「民族自決」も「白人の為の民族独立」だったのであるが、これに刺激された「在日朝鮮人留学生」が大正八年（1919年）二月、東京で決起集会を開き独立要求書を日本政府に提出しようとしたことに端を発したものである。学生達は有色人種も対象であると考えたのである。この動きはすぐに半島にも伝わった。同年三月一日、京城のパゴダ公園に宗教家33人が集まって「独立宣言」が、「非暴力」「無抵抗主義」を標榜して街頭で「万歳デモ」を行った。ところが商人や労働者が加わると様相が一変し、瞬く間に全国的暴動に発展した。しかし韓国では、全ては日本の憲兵・警察がやったと教えられており、教科書には次の如く記述している。「万歳デモが拡散すると日帝は憲兵・警察は勿論、軍人まで緊急出動させ、デモ群衆を無差別殺傷した。（中略）全住民を教会に集合させた後、監禁して火をつけ虐殺した。デモに参加したという理由で無数の人々が投獄され、非人道的な刑罰を受け多くの人が命を失った。

韓国の小・中学校教科書にも、拷問・銃殺・火殺がこれでもかこれでもかと書かれている。そして「三・一独立運動」を「朝鮮の民衆が日本帝国に反旗を翻した偉大な独立運動」と位置づけ、三月一日を国民記念日にして、国を挙げて毎年大々的な行事を行っている。しかし歴史上の真実から見て「本当に独立運動」であったかは甚だ疑問の残るところである。初期のデモは別にして、後の暴動は単なる騒擾（そうじょう）事件と呼ぶべきものだからである。日本と朝鮮の分裂を狙う欧米の宣教師に煽（あお）られた朝鮮キリスト教徒達の暴動であるとの見方も強い。日本人が惨殺されたケースもあり、まさしく「テロ」と呼ばれるもので「一般大衆」からも支持されてはいなかった。

韓国の作家兼評論家の「金完順（キムワンソブ）」は綿密な研究の結果「独立運動でなく暴動であった」と述べている。またこの運動の代表者の一人「朴熙道（パクヒド）」は後に「近代化の為には朝鮮語を全廃すべし」と総督府に申し入れている。また「三・一独立宣言」を起草した「崔南善（チェナムソン）」は二年六ヶ月の懲役刑を受けたが、後に満州建国大学の教授になっている。そして大東亜

戦争を「英米の桎梏（しっこく）に泣く東亜十数億大衆の祈願であり、真に万邦共栄の世界秩序を確立するアジアの解放戦争」と言っている。その言が原因なのか、戦後は政府から反民族行為処罰法によって処罰されている。この件で有罪判決を受けた者で死刑や懲役実質三年以上の刑を受けた者はいなかった。

三一運動の崔南善（チェナムソン）・朴熙道（パクヒド）等主要リーダー（3～4名）達は日本の司法制度の公正な裁判に感激し、やがて強烈なファンとなり1930年代の朝鮮言論界をリードすることとなった。三一運動の英雄とされた16歳の少女「柳寛順（ユガンスン）」は独立運動参加を呼びかけた為に、日本軍の厳しい拷問を受け、命を失った…とされ、また拷問を受けた者は10万人に達したと血書には記されている。それを日本の教科書も信じて、朝鮮の「ジャンヌ・ダルク」として描いている。朝鮮に於いては民事被告人すら拷問する、常習化された残虐な行為は1908年に日本によって禁止されている。彼女の死因は、デモ現場での負傷と獄中での反抗による体力消耗等が原因であった。

金完順（キムワンソブ）は、当時憲兵警察六人と警察二人を殺害し、官公署を破壊放火した朝鮮人被疑者に対しても拷問は加えなかったとの政府記録から見ても1年6ヶ月の軽犯罪である柳寛順（ユガンスン）を拷問したというのは虚偽捏造であることは明らかであり、三一運動では柳寛順（ユガンスン）のみならず三一運動に加わったとの理由で逮捕された人は一人も居なかったのが真実である。逆に日本は近代法制度導入で朝鮮人の多くの命を救っている。また刑務所は朝鮮時代の皆起立したままや拷問による地獄状態から日本統治によって天国に変わった。また近代医療の導入で平均寿命は倍に伸びた。



日本により近代化された西大門刑務所。現在は日本の残虐性を象徴する記念館になっている。

朴殷植（パクウンシク）による「血書」なるものは、読むに堪えない虚偽捏造の虐殺の内容であり、ここに全てを列挙するのはできないが、詳しく知りたい方は

「金完燮（キムワンソブ）」氏の『『親日派のための弁明1・2』（扶桑社）』を読まれることをお勧め致します。

日本の歴史教科書も真実か否かを調べ「日本を貶める行為」が如何に重大な罪かを自覚してもらいたい。

平成30年2月13日

志雲会代表 有馬正能